和朝

今昔物語

巻之四

世俗部

今昔物語 倭部 四目録

○世俗傳

一 中勢左浦女子為近江郡司婢語
二 大和国人得他女語
三 右近少将下向鎮西語
四 上総国貞女語

九曜文庫
杉山文庫藏書

今昔物語 倭部四

○世俗傳

一 中務の大輔娘為迫石郡司婿と語

今いまは中務大輔といふ人あり。男子いまさず。女子一人あり。家まづしうもあれども。名聞の衛佐といふ人を。婿とりてあるを聟として。年を経ゝあり。中務失せぬれば。母一人をとゝのこりてゐたりけるに。ものくるしうなりぬれば。女子を人のもとに居てやしなはれむとおもひて。家の内の人もおれくるゝれば。女子を召使よりして。親のゆくへを

ぐらいぞうしてさてはゆるみ。
めくさちうすくちうすれば。くてゆくをんなところ
うしぞうしてもちうしてでかんゆうにぬるをと
いひくれば。男ゆめうてゆくてうそんどもてんどは
ぐといひてぞうをみくれども。着物ぞうぐ面ぐれ
ゆをばくていうあだくをんなおぼうんもうぐれ
しきぐうちうぐちうれどもいうりて身をうて給
ひてゆぐり出るうれいゆうづきうくすうれば。
男げあうてつあうけうきうぞうひうりみ
ぐうてぐうくあうれうぐうぐうぐうみ。

家に人もなくてひとりなりける者を一人
かりそめにとて衣合せもあるべくもあれば男
男もかくいとはしくはいひけれども仰せ言
しあれば人の妻にはあるべきにあれば
つとめて女いと涙あるべくもあれども寝殿のうへ
うすうふひとりをみ拵らへてその寝殿の片
くに年老たる尼宿して住べきにひとりあれ
づるそ呼べく菓子などいとのぎ紙にあるべくを
べきにあらねばようて年月を経べきにあらず。
近江国の郡司が子。長宿直していたりけるうへ。

のぎ紙にあるべき尼が許よりとて持てきたる。尼ぬ
しいて。後然なりて女童をもてはやさせよと乳
母に尼にまた年老くいづくにか出べき女童の
らんうさもたづねべき家の門みそはくさ
姫君のひとりぬしすれどいとあれば男耳をとど
めてそ秋を飽よあくせもへてかがやくを
し給へんよりはあらはゆくくい間よつまとぶらて。
妻よきんとひとりしべ尼はあ紙いとをとうあ
あいとう男うく笑てようあいとうに尼とせり
くれば尼うの女はすくみ菓子などもちゆくに

けるのぞみ。いつまでもなくて物ぐさん。なぎみ迎ひよう
ちうるべさ人むるのよりくるが。れくゆゆとて紙
向く。国よりつまてぐうをくんし。物より作と。ちうの
さうにてせさ物ひーまれ。女何家
さう幸いせんといいて。夜ひ尼いうて男み
ひくとひうてぞうの夜ひづいて。男をいれてぎう。
女いうみをんと物ひくどもう。ひをくて。ゆうくう。男
ゐれてのちうさうぐくとうひそれば。相具して迎に
みくぐうくう。男ものよう国許よ妻あうそれば。
己が親が家うを。ひくかうひくう紙うの妻い

くく行くくれば。男は京の女のりくれい家
をけうぐ家くくうくれば。男は女いゆきさはるみ
て。親が方乃婿女くちうもうさう行よ。は国より
あくくは国の守紙うをいうてぐうのふ人あうと。
国中こぞりてさうだあつうることうぐうみーぐで
よう家飯物くゆくうもて。は那司菓子合物
なぐうかいくぐくのくくくくくびくうは京よ
つまくぐうう姫をぐう紙京のくつまそはうひ
くうう。館へ物そうぶ女れうちちう。国守物ひくの
男女の下衆どもの物をけくびゆくぐくて他よ

と仰せらるるはいかなる人ぞとのたまへば、
人童とよびて、彼女いづくにありしものぞとて来
きていへば、ふかき人を召しあつめ、そこばくの
着物ども女のもとへ送り給へば、彼女飯沸かせて、湯に
つけ、白紙にくるみて、郡司殿へ送りて、家にかへりて、
京のよ湯浴を髪洗せ、衣をきせ、郡司妻よ、見
給へ、京のごとくにうつくしき海のうへにさとぞい
ひける。長夜寝飯よりもうつくしき京のごと
本のまれ名来たりて、やうやう人のぞうるるあひ
だ。はや京のをとこ、なよなよとふかく笑く

なげく抱て出でるふきにうつりてもうつりうつるとうれい
つるるものぞ。おのおのくるんにはがいゆくこひ
まるふ。女い名来たりとうれてさもあるべう
くれば。我いは国の人にもあらぬ。京にたんあるとと
いひうつ。寄さていに京の着れまりて。郡司よつう
くれるにこをあるうとこひくぞうるんつを
あるうにたくづいて。なほめくいつくしくわるひ
けるとぞ。ぞなくみよびくるみ。なほあるくくるの
あくれよ。我妻よりくはうくるとこいてぞうるとも
京にていつるるものぞ。くもひまつるなり

それば。くさぐさいつくしかりければ。女てをれば。日ごろの戸ばりつくれば。
ものいふとてをきゝ。べかりとあるこのまに
うゝてをさくれば。守されば。こゝをあやまくちひ
はるものの。紙。羽妻よりこゝをあつまりとこゝにて。
ものうれ涙のうゝづ紙。さりげなくてよりて
あつて。ものうけつゝ。ひの浪の音ゆえくれば
女これと聞くこれいい何の音ゆえやとゝ
いひくふ。守うゝ
見てこの紙よりあつて紙いゝいつゝ。

ゝて。紙いつゝ乃。長歌仕りをいて。注々れど。
女さていい紙のまたるゝ。ものゝ。ものゝ。
て。物ゝえいゝぞ。ゝ名ゝ。ゝくゝなりゝゆくと。守いゝて
いてさいだくゝ。紙よ。女ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
あゝれなゝ事ゝ。女。身の宿世ゆゝれて。
ゝんゝゝされゝゝゝゝゝゝ。男ゝ
なゝゝゝゝ。事ゝとあゝいさゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

二　大和國人得法女子語

今昔大和国に人あり。心人なる紙屋にて
ありもとなる。いとあるまめあるきん受領して
家ゆたかにて。よろづ富みゆたかにあり。其
妻嫉妬しうけるふ。みあるあるかしてごとし
一度よ嫉妬しくく。行ちて二人ともふ女の紙屋
にうつ。まめやかにいとげさうれどもうしなくて。
実乃妻うしびるをのうくれば妻あるれどして
産れしうん女子紙屋ふしうして。中うひうし
びの嫉のうもしたんしいひくれば。守うれしくちひ
て。乳母ごうと異してのうとしうして。清

子紙でぐ。うれさうれふ二人の子紙屋にて中
おうさうる。乳母乃ふいあさうるれば。乳母と
しうるに乳母ばうしてるしけうふ。びの本服乃
乳母けうあき者うして。びの乳母とあうして。ぴうふ
りて笑いぐやゆさうる。大和国に住ける女
びの本服の乳母ぐりうふ。ある紙のうしして。乳
るの乳母ぐ祈入うるひまいぐれて。大和乃
母とうをて。ぴうあるあるあるれうすて。乳母よく
うをてうぐといへば。大和女幼児をいぐして。大和
へ行くふ。ぴうつうれ馬ようして。清者あるこ異

ゝろ女よ舍ゝろうぱ山ゝ城の城下郡の領主なる。
藤太まゝしゝゝ福者の妻ゝろ。夫婦ゝとなれる。
ゝれゝゝ紙あげゝて。常に長谷の淵ぞゝ子紙
祈ゝゝゝ。今日も也谷へ参りてゝゝ路ゝり。
ゝゝ大和の女いは女子紙。捨んゝいゝもゝひゝし。
いゝきゝげゝゝゝれいゝゝて行ゝ。為ゝ
う妻ゝゝふ。下宿女の百日ゝゝれゝる思乃。
いゝゝゝいゝゝ紙いゝれてゆゝゝみゝゝ思い海ゝ
ゝゝいゝゝゝゝ紙ぞゝいゝゝゝゝゝゝ。ゝ
紙ゝれゝゝゝゝゝゝれゝゝゝゝゝゝ

はれゝゝしてするゝゝ長母ゝの美ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ人もゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人を為ゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ紙ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うけど高位ゆえ、さのまくれ。乳母がとゝへ
しまをとりてゆきくらしさをのつゆぐくい。
ゆきんといへばようづよ整言紙とてちゝとべ
ものごとようといふのくれあ母ゆゝふいちゝく
ろ人のゆゝなりとゝへば。つゝくゝ秋くてゆゝく
ゝ観音のゆゝをけゝ秋ひれてゆゝゝろ
ゝゝしぞとゝあをひいてゆゝゆゝて立帰
ゝゆゝまゝ妻ゝゝをけゝて言育ゝまゝゆゝく
彼親の家ゝゆゝ思とゝゝゝゝさつだゆゝゆゝく
ゆゝれどゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝ

ゆくて本腹の女ゝゝ六歳にゆゝくゆゝら有ゝゆ
ゝはゝゝゝゝけゝふゆゝ右近少将ゝゝゆゝらゝゝい
ゝゝゆゝゝわゝゝゝゝゝ紙観音にゝゝゝゆゝばゝ
ゝゝゆゝゝゝひゝ相ゝゝゝゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
しゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

そぐわ[illegible]人よ[illegible]ん人をみくだれてぞ。祈ひ
物のひろうの為なまが[illegible]ひあるい。年月を
経るまでに。[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]ひ

いとをかしくなん思えたるに及びて。畳寄せてげろ
よせといひしかば。寄せてうのようにとかくとしたがね
ばかりのかたちにて。女はげさうひろ程よ。女は行き
うれけまどうづめべきさうなる色にがれの衣り
あんでこれを学生の恪生まうろふ。ねぐらとの
次ぎ。ふれ男と裏といいつきれ所にて同名れ
ば。恪生男の裏にいたる。大和なる旅人といふ所に
とまりて。舊事にしたがれたいひれば。ふれを
男てい。こう神にくらいてさうべそうにとむ人
ちりにいりて。よりあるれどもこの人はさろ

うはりてさういうんにゆうぐやと神のよ伝つきて
小舎人童と侍二人。舎人男一人具して。ひそうに
大和へゆきて。旅下と言ふ所にぐして行くれば。
いつくもさうびにさぐ大なる家の。桂垣めぐさ
し廻いしろあり。ゆうんと神のいま
づいてるより神りて門よりそる所。小舎人童が
乃稲荷にて男女の侍りて女童の家門より
出ろ所にて。さうそうを行るをいひしうば。
かれ大よりろうびて。その近きあるに家とう
ゐようとのりもたくいし。旅よ寄と

して子孫おごくちくへくろくもん法つくえてろくもも

三　右近の将下向の時語

今いむかしのことなわるものとの人ありけるころ右近
のいくさにくだりくとてはるの管絃をもん
このこまるのころふかおわる九月のなれ十日ごろの
はつかのいくさ勝りろくるる人のもとへゆき
ろくふぐのもてよこ言下にあれこころ乃ぬ
やちきかりもうのの内ろぐるかも第ぬ音
乃ゆえくれべかわ東より帰りていくる人乃
ちしうもんとぬくろいて門よりを入く

中門の廊にすれこころてこれべぬ乃羽のこぐ
まに紙かしまれわげて年のよらいかだろ御女
乃ぬくをこれくこは御ゆくきが第に第紙をく
ひこ長こうぬつこいみくくわこおわこれり
ぬこはりてゆくこの乃紙乃これよろう女房れお
こはちこれ女を一人長くぬ人をこれべぬ右将
こ御おいもあくぬやこいて抑く入こうぬし
かこうべきこうこなこるこれべあゆくいこいこれ
ぬこぬるしべこゆこうこくしてちぬこたこうおわ
女のけくしあうこ女ゆこ仏こぬみしうきれべ。

そのごいまくあくなしくしくしく

ざうろくしぶ病く命くる年月と経ぐぶ病そぐに絶
ぐくるぐくゆぐそくしぶ今一度あいぶぐして
失るべぶ母のさうくもたうぐぐくとして世か
やまふいくあくとぶ父の大納言ぶぶの御ぐ
くうくいてものぐて出ぐぶ結ぶいたうくく
うまづうみ隨身一人小舎人童一人馬舎人だうく
みくぶ行ぶく不知くあくぐに漸日
うすと行くぶ絶ぶぶ宰府よぐうつくして京
にてちくさあくうに兵くくう出ぐて。
のくくうくれぶ。あくくれよくいて大弐が妻う

のくく出ぐうぶ。あくくれくくいくる氣色ぶう。ぶ將
ちぶ世の中に力ぶのくくぶるくくぶ。
今一度対面をんとくいてぐうくくいを
きぶぶのぶるのくまで世ぶいまいくる事のうを
くさくいて命くうくれぶ。ぶ。ぶくくもぶくくも
いくぐくて其曉ぶ船馬くうくを出て京へう
くんくちけきぶ。ぶいくあくて行ぐきくいくれぶ。
ぶぶきくぶどくてのぐくくうくぶ。ぶくくも十二月だうう
乃ぶくるぶ。雪くくくうくて風乃くくさくくえぐ
くけきぐくぐ。ぶくくれのくくくもくぐぐ。ぶくくいて

ぶて行者うんとづつ呂いて行くつゝみ日記
みまくらぶいて雪ふつたりてくく寒をしべ宿
こおべこおるまくて。木れるふ下おく。流くつゝ
とゝびとて。食物ぶごそのくて。ぬくいを
つぶ身し食しくつ。よろぶ白ばくて。道おりこ
ゆくすぶぶのおくれおるこ紙ぶごいくつゝ
て泣くつ。ちる間おわくれる方にぬくこ。
ゝくゆくつゝ。久くこざくくれべ。ぬいぶくく
こいて供の者ぶの間紙ぶて居こ紙よびて。
くゝぬはぶ。うべおのくく行てんくつふぶわいる。

女ぶぶきてぶれここぶ紙居こ紙ふこある
ところ短おくてぶこつゝみおるの衣乃神紙か
けこつ。紙奥のこ紙これべ。ぶのしろおくこ。
おるのふみこつ草鞋のくおつ。ぶとてこれべ。
こぶ居乃平のこぶ白くつ紙。女おおよりち行
てぶこまくびふれ。ぶこれここつ女いこぶつか
ふいくんぶぶここれぶ物こつ。ぬくて二百ぶつ者
てぶぶ物ぬけ大武くくこぶて。数の人紙行いて
こぶ〇くつぶ。ぶおるの釈乃大納言れもやこつも。
おる結ぶへ行こぶて。人をこいけぶ。こもに

はしたのものふたち○来りてがわ殿に問奉れども。こ
とばさかしくて。ゆうくきりくしいとしれば使
あやしく泣ゆきぬ。ものゝ甲斐なし。法師乃人
女房つまゆんとしれども。涙まよいて物もいはず
らべば使いもれくうくうくうくうくうくうくう。女い宮にて泣ぬる
なげきをしけるぬ。さうん語つゝえうくも也

四　山城の国貞女諸

といひくゝ山城の国の住人。女子ひとりありけ
聟と合をうくうくうくに其むこ失くれば親又他乃
男房あつまりとしてひとりゆくて母よりいひくうくい。

我男子に具してあるべき宿世なり。海の男
不死して有るなり。男は具とあるべき報あれば
世をうれい死ぬうくわ。さてしも男房海をうきたる
身のひとりあるべしも死べしもうれしべひ事やあ
らるべくとて。母これを聞て大に泣ぐるさ。又
かうけきべ又けくくうくて。我年ともでは死ぬう。
るうくうくよりは海そのうちいうふてう世にあり
ぬやといひて。房あつまりをんとんひとりあるい
くく。さうくべひるるに過ぬ巣房はうて。子房うひ蘇
あり。雄蘇を相具さうくうくは雄蘇房とうて。

こうして。雌燕よこうしてとけまてそれらこうの
明年其雌燕。他の雄燕と具して来りこん
こうして。秋こうくつまて。まをびあくをのへ。禽獸
こうまをこうしあひつまび。他の雄を設くこうの
なしぬくんやくいくしこうの子毎げよ
こうの事もこて。其巣よ巣をけこうてこうこう
こうの燕こうこう。雄燕とこうして。雌燕よいのら
ふ毒こ糸をけこうくこうのくてあこうの事
の玄燕こうこう。其雌他の雄燕と具をびして。
頭こう糸こつをあこうこう来こうくこうこう。巣こつこうて

子こうしこうのいあくして。綿よ乱こうこう。子毎足と
みくぬこくふこうの事みこうこいこて。ひこあよ雄と
あいをみこくこよれこう。なこうこうこうこうこうこて後
ひけあかくこうこうくこう
かこいこいあいこみよつあすここうこう人よ契こあ物こう
燕こて他の雄あくして。子こいうまひこ。あよ来こう
くんこれこあこれあまこ。人こて雄こて。子後の雄
をぬこくこいぬ。鳥こてこくこうこうこうこうこうこう
けこここここここ也

今昔物語四

〇十六